

学友会コーナー 生徒活動紹介のコーナーです

平成26年度〈前期〉学友会役員

会長	宮澤あずさ(2-2)	
副会長	宮坂慶佑(2-5)	帯川恵輔(2-1)
	委員長	副委員長
協議会	唐澤秀樹(2-1)	三村和久(2-3) 戸谷遥(2-5)
執行委員会	小林翼(2-6)	中山ゆきな(2-5) 平林蒼音(1-2)
【常置委員会】	会誌編集委員会	望月ユリオ(2-5) 中條水貴(2-6)
	端艇管理委員会	名取穂高(1-2) 吉野英舜(1-6)
	保健委員会	伊藤輝之(2-3) 岩波風音(2-6)
	清美委員会	春日亮(2-1) 原田結衣(2-4)
	文化生活委員会	吉江凜平(2-2) 宮本春菜(2-1)
	放送委員会	大槻聡志(2-3) 五味梨香(2-2)
	図書委員会	山本明日香(2-2) 徳田ゆかり(2-2)
	新聞委員会	両角優香(2-5) 巻潤優也(1-6)
	部活動委員会	宮澤友樹(2-4) 唐澤祐佳(2-5)
	選挙管理委員会	野村美里(2-6) 根橋宙之(2-1)
会計委員会	井口大輔(2-4) 高橋美風(2-3)	
監査委員会	唐澤斉秀(2-1)	西山輝(2-4) 北原智輝(2-3) 須田力(2-1) 藤森野染美(2-5)
	書記	小口慎司(2-6) 矢島佳奈(2-6) 山本奏恵(2-6) 矢代達希(2-6) 武川千恵(2-1)

第64回(平成26年度)清陵祭 小委員長

実行委員長	中島展	副実行委員長	望月ユリオ
総務	唐澤祐佳	暗幕	塚田佳生
会計局	井口大輔	〃	帯川恵輔
書記局	矢代達希	喫茶	藤森英佑
備品局	山田広俊	装飾	伊藤輝之
警備	佐野実	放送	大槻聡志
ファイヤーストーム	唐澤斉秀	娯楽	花原毅
運動会	中島智弥	会場	岩波岳
合唱コンクール	宮本春菜	〃	市川玄章
接待受付	山本明日香	広報	小口史織
アーチ	武井貴寛	保健	岩波風音
バザー	五味梨香	清美	後藤真珠
フォークダンス	塩原達章		

クラブ紹介³² 剣道部

私たち剣道部は、男子10名・女子7名で活動しています。昨年は新人戦南信大会で優勝し、部活全体で前向きに日々練習に取り組むことができています。剣道部の一番良いところは、先輩と後輩の分け隔てがありません、気づいたところなどを言い合えるところです。

今年は春の本大会で再び南信1位の称号を手に入れ、県大会でもベスト4を目指して頑張ります。そして、個人戦でも良い結果を出せるよう努力していきます。

部長 武井 貴寛

「県大会・全国大会の結果」

陸上部

平成25年度
長野県高等学校総合体育大会駅伝競走大会(大町駅伝)出場
男子(渡邊、小池、塚田、吉田、小口、北原、井口)
女子(中村、梅垣、野口、寺島、笠原)

ソフトテニス部

平成25年度
高等学校選抜ソフトテニス大会(12月7日 やまびこドーム)
男子個人戦 2回戦
小池・花原組(諏訪清陵) 0-4 丸山・峯村組(松商学園)

剣道部

全国高校選抜県予選(1月13日)
男子団体
2回戦 諏訪清陵 3-1 松本県ヶ丘
準々決勝 諏訪清陵 0-2 屋代

美術部

第35回長野県高等学校美術展
県代表推薦作品(全国選出)
「憧れ」2年 七倉 有里

平成25年度明るい選挙啓発ポスターコンクール

高等学校の部一等
1年 小河原 智子

書道部

第19回全日本高等学校書道コンクール
「礼器碑」「書譜」準部門賞
味澤 香苗(2-1)

吹奏楽部

第39回長野県アンサンブルコンテスト高等学校部門 県大会
クラリネット6重奏(矢口・矢澤・矢島・熊澤・原・宮坂) 銀賞

第12回管楽器個人・重奏コンテスト県大会

個人の部
フルート独奏 荒井夏実 金賞
3月22日 本大会(石川県)出場予定



卒業生(117回生)243名巣立つ

3月1日(土)午前10時、平成25年度第66回卒業証書授与式が挙行されました。数日前の暖かな陽気から季節が少し逆戻りしたような寒さの中でしたが、スーツや袴姿の卒業生が式場を華やかに彩りました。この日卒業を迎えた第117回生は、男子139名、女子104名の全243名。学校長からはなむけの言葉や、同窓会長、PTA会長からの祝いの言葉を胸に刻みました。卒業記念品として、今年4月開校の附属中学校への図書が贈呈されました。

式後には、伝統行事である学友会主催の「談話会」が行われました。卒業生から後輩へ、在校生からお世話になった先輩へ、有志生徒がそれぞれの思いを伝え、別れを惜しましました。

最後のホームルームを終えた卒業生たちは、友と語り合ったり後輩を激励したり、お世話になった先生にお礼の挨拶をするなどして、抱えきれないほどの思い出とともに母校を巣立ちました。



大学入試情報(3学年進路係より)

3年生は国立大学前期試験で、果敢に第一志望の大学に挑戦しました。卒業式前後から順に合格発表があり、現時点(3月13日)で判明している範囲(現役のみ)については以下の通りです。

北海道(1)、筑波(2)、千葉(5)、埼玉(2)、お茶の水(1)、東京農工(1)、横浜国立(3)、新潟(1)、金沢(4)、山梨(3)、信州(12)、名古屋(2)、大阪(1)、神戸(1)、広島(1)、首都大東京(2)、横浜市立(3)等、前期までの国立大学の合格者数は56名でした。厳しい結果が出た生徒は中期・後期試験に臨みました。

また私立大学については、日本(9)、中央(5)、法政(5)、立教(5)、明治(5)、早稲田(5)、立命館(5)、同志社(4)、日本女子(3)、青山学院(2)、東京女子(2)、上智(1)、国際基督教(1)、関西学院(1)、等延べ218名が希望の大学へ合格しました。

また希望者の多い医歯薬系(医は医学科のみの数)では、信州(医2)、北里(医1)、明治薬科(薬3)、東邦(薬3)、その他(薬3)でした。

国立大学中・後期試験の発表は20日から23日まで行われます。よい結果が出ることを期待しています。4月には結果がそろっているので、ホームページをご覧ください。

これからの行事予定

4月	4日	新任式・始業式・高校入学式
	5日	附属中学校開校式・入学式
5月	2日	クラスマッチ
	22日 23日	一斉考査
6月	24日	授業公開
	3日	芸術鑑賞
7月	17~19日	第1回定期考査
	4~6日	清陵祭
	12日	清陵サイエンスフォーラム 21

発行・編集 長野県諏訪清陵高等学校 教務係

〒392-8548 長野県諏訪市清水 1-10-1 TEL. 0266-52-0201 FAX. 0266-57-2426

http://www.nagano-c.ed.jp/seiryohs/ e-mail:seiryohs@nagano-c.ed.jp

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

文部科学省の指定を受け、科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて科学技術系人材の育成のために、独自のカリキュラムによる授業 (スーパーサイエンス・科学英語入門・SSH 情報等) や、大学・研究機関などとの連携、海外科学セミナー (アラスカ大学フェアバンクス校)、地域の特色を生かした課題探究など様々な取組みを積極的に行っています。

地域の皆さんや保護者の皆さんへ向けた取組みを実施しています!

清陵サイエンスフォーラム 21

清陵サイエンスフォーラム21では、各界で功績をあげられている方をお招きして「講演会」と「講師を囲む会」を地域の皆さんにも公開して実施しています。

フォーラムは今年度12月で43回を重ねています。今年度の第41回は一橋大学名誉教授中嶋浩一先生に「インターネットと天文学 ～天体データベースと仮想天文台～」を、第42回は京都大学特任教授中野不二男先生に「『宇宙人文学のスズメ』～御神渡りと相関を考える視野～」を、そして第43回は東京大学先端技術研究センター教授神崎亮平先生に「ロボットとコンピュータで探る昆虫の感覚と脳と行動の不思議」の演題で実施しました (右写真)。第41回講演後のアンケートでは、「普段このような話に全く縁のない主婦です。先生のお話はとてもわかりやすく興味を持ちました。今まで新聞で宇宙科学の記事が載っていても大文字だけチラリと見るだけでしたが、これを機会に中身も読んでみようと思いました。」というご意見を頂きました。



地域の児童生徒の皆さんへ「わくわくサイエンス教室」など 諏訪市児童センターの協力を得て実施



11月に催された諏訪市児童センター「センターまつり2013」に本校科学系クラブの生徒が参加しました。あいにくの天気の中でしたが、500人を超える来場者があり、いろいろな行事を楽しんでいました。

当日は、会場の一角に諏訪清陵高等学校の発表ブースを2ヶ所設けさせていただいて、化学部、生物部の生徒が地域の小中学生やその保護者の皆さんに向けて、ポスター発表、展示発表、模擬実験発表を行い、物理部の生徒は自ら製作した科学遊具を使って、ゲーム感覚で小中学生の科学的な好奇心を喚起していました。それ以外にも児童センター「わくわくサイエンス教室」に参加させて頂いています。

地域の皆さんのご協力を頂いて SSH 事業を運営

1学年SSH情報では、9月13日 (金) に諏訪圏13社の企業のご協力を得て、先端技術産業研修を行いました。

当日は訪問企業の事前調べをSSH情報の授業で行ってから訪問をさせて頂きました。「百聞は一見にしかず。」実際に現場で見聞きして多くのことを体験し、学ぶことが出来ました。

このうち、生徒9名が見学させて頂いた岡谷市川岸の (株) リバーセイコーでは、開発製造している手術用カテーテルを実際に見せて頂きました。刃渡り2mmのハサミで、皮1枚残してガン組織をはぎ取ることができること、今まで8時間もかかっていた手術が27分に短縮されるなど、ガン手術に革命を起こしたものを生産していることを知り生徒は驚いていました。

「ものづくりは情報を「かたち」にすること」、「3つの気 (気が利く・気がつく・気を配る)」ことなど、対応して頂いた創業者は自らの経営哲学や、社会の中でどう生き抜いていくか、といった人生哲学まで熱く語られ、生徒も深い感銘を受けていました。インターネットでの会社調べなど、机上の事前学習からは計り知ることのできない“実際”に触れることができました。

その後、諏訪圏工業メッセの見学を実施し、地域の製造業をテーマに課題研究を行い、学校で研究発表しました。



卒業生の言葉

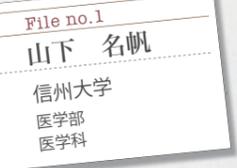
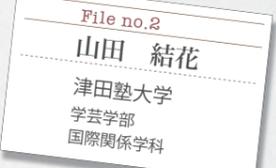
昨年度卒業生から清陵の思い出、大学の様子などを聞かせてもらいました。

進路

努力することをやめるな

私が大学に入学してから一年がたちました。部活動や過酷な受験を経て大学生になってみると、高校の時にこれやっていたよ良かったなと思ったり、もっとこうすればよかったと後悔したりする面が多々あります。そう思う中で、高校時代を清陵で過ごした私から在校生の皆さんに一つだけ伝えたいことは、「努力することをやめるな」ということです。

私は、実は今通っている大学とは別の学校を志望していました。1年のころから授業はまじめに受けていたので成績は安定していて、3年の初めの模試では第一志望の大学の合格判定もいい感じでした。このままだと可能性もあるかと思って勉強し続けていましたが、人生はそんなに上手くいかないものですね。周りの人が受験モードに入っていくとともに判定はみるみる悪くなっていきました。それでも頑張れば何とかなるはずと思って奮闘しましたが、判定が良くなることはありませんでした。センターまであと一か月というところで他大学の対策を始めました。努力してきたからこそ、自分の理想と現実が合わないことに対する苦しみは大きなものだったと思いますし、今まで生きてきた中で一番辛い時期だったかもしれません。しかし、今、その時期を振り返って良かったと思うことは、その悔しさをばねにしてまた努力を続けられたことです。その結果、こうして大学生になることができました。今ではその努力してきたことがどれだけ価値のあるものだったのかを実感しています。そして、そう感じるからこそ、大学入学後も自分なりに向上していくことができるのだと思います。もし、結果に満足してばかりでこれまでの努力をやめてしまえば、せっかく苦勞して入った学校なのにその努力が無駄になってしまうと思いませんか?いくら努力しても報われない人や、望み通りのタイミングでそれが発揮されない人、あるいは見事その努力が実る人など様々ですが、大事なはその結果ではなく努力してきたということだと思います。テストでいい点を取ることや高校や大学に合格するといった結果がゴールではありません。むしろその結果がでてからが始まりです。そして、それを生かすか無駄にするかは、もちろん自分自身にかかっています。一度しかない高校生活を皆さんが楽しく有意義に過ごしていけるよう心から願っています。



2学年進路係より

新課程初年度入試の受験者となるこの学年では、数学・理科の学習内容の負担増等に備えて、いくつかの対策をしてきました。まず、生徒一人ひとりが自らの進路に十分な情報と明確な目標を持つことができるように、1学年の3月に進路レポートを作成し、LHRで発表し合った上で、4月の学習オリエンテーションで代表者がプレゼンテーションをしました。当日参加された保護者の方からは、「きっと何かが変わりましたね」という感想をいただきました。

さらに保護者の方にも新課程入試を理解していただけるように、5月と10月に学年 PTA (10月はクラス PTA) を行い、疑問や不安に思っている点についてご質問やご意見をお聞きしました。生徒に向けた取り組みとしては日常的なドリル、補習、添削指導はもちろん、8月と3月には宿泊の「学習合宿」(希望者)を実施するとともに、全員参加の校外模擬試験に加えて、難関大受験希望者を中心に「ハイレベル模試」の実施も複数

回行い、その都度、約70名の受験者が集まりました。これらの活動の中で重視してきたのは、生徒が目先の点数に振り回される前に、まず、「なぜ」「どうやって」「何を目標に」学ぶのかを明確に意識してもらうことです。基礎・基本の力をいかにつけるか、単なる「受験学力」ではなく、「自ら学ぶ力」も含めた「学力」を育てることを2学年の最大の目標としてきました。そんな意味では、3泊4日で行われた研修旅行において、阪神淡路大震災の被災地や、世界最初の原爆投下地ヒロシマを訪れ、人間の営みの愚かさや悲劇から立ち上がる崇高さに出会えたこと、そして集団行動の中で他者とのコミュニケーションやセルフコントロールの大切さを実体験できたのは大きな収穫でした。

本校の「自治」の精神の実践者として、附属中学校を含めた清陵高校全体の学問的、精神的リーダーとして育てていく手助けを今後とも全力でしてまいります。